

JVCケンウッドグループ 決算説明会

2011年(平成23年)3月期 第1四半期

JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社
2010年7月29日

2011年3月期 第1四半期 決算概況

取締役 兼 CFO 不破 久温

2011年3月期 業績予想と今後の取り組み

代表取締役会長 兼 社長 兼 CEO 河原 春郎

2011年3月期 第1四半期 決算概況

取締役 兼 CFO 不破 久温

【資料中の略語】

CE: カーエレクトロニクス(事業)

BB: 業務用システム(事業)

COM: コミュニケーションズ(分野)、BS: ビジネス・ソリューション(分野)

HM: ホーム & モバイルエレクトロニクス(事業)

DP: ディスプレイ(分野)、CAM: カムコーダー(分野)、HA: ホームオーディオ(分野)、

AVC: AVアクセサリー(分野)

SE: エンタテインメント(事業)

【売上高】

* CEは前4Qに引き続き大幅増収、HMはDPの絞り込みとCAMの販売減少で大幅減収

* 全体では、想定どおりながら前年同期比では減収

【損益】

* CE、COMは前4Qに引き続き収益力が回復、HM、BS、SEの損益は大きく改善

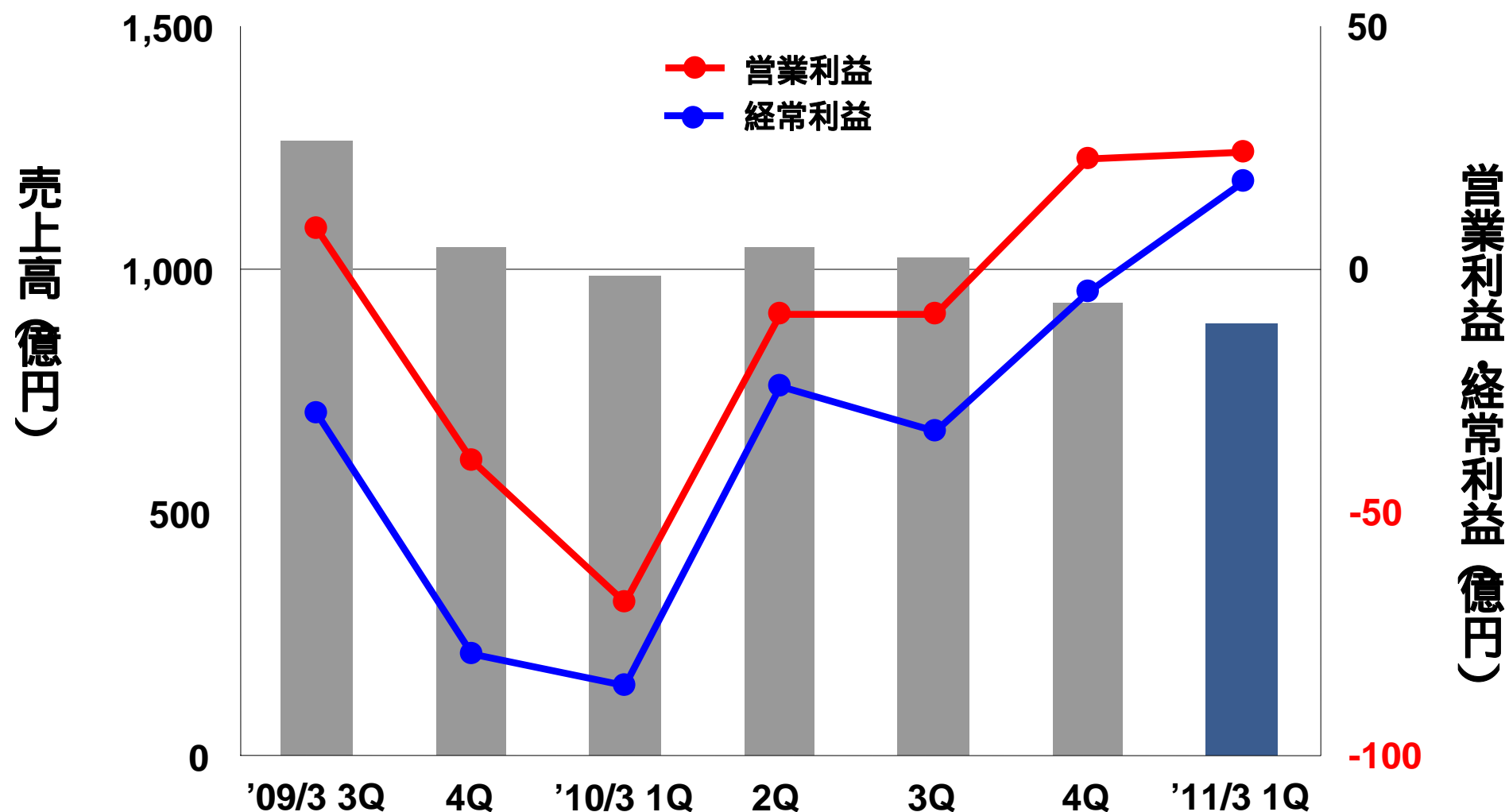
* 全体では、想定以上に損益改善が進展

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	為替
'11/3 1Q実績	887	24	18	-4	USドル:約92円 ユーロ:約117円
前期実績	986	-69	-86	-95	USドル:約97円 ユーロ:約133円

* **営業利益**は前4Qに続いて**2四半期連続**で経営統合後の**最高益更新**

* **経常利益**は経営統合後初めて**黒字化**

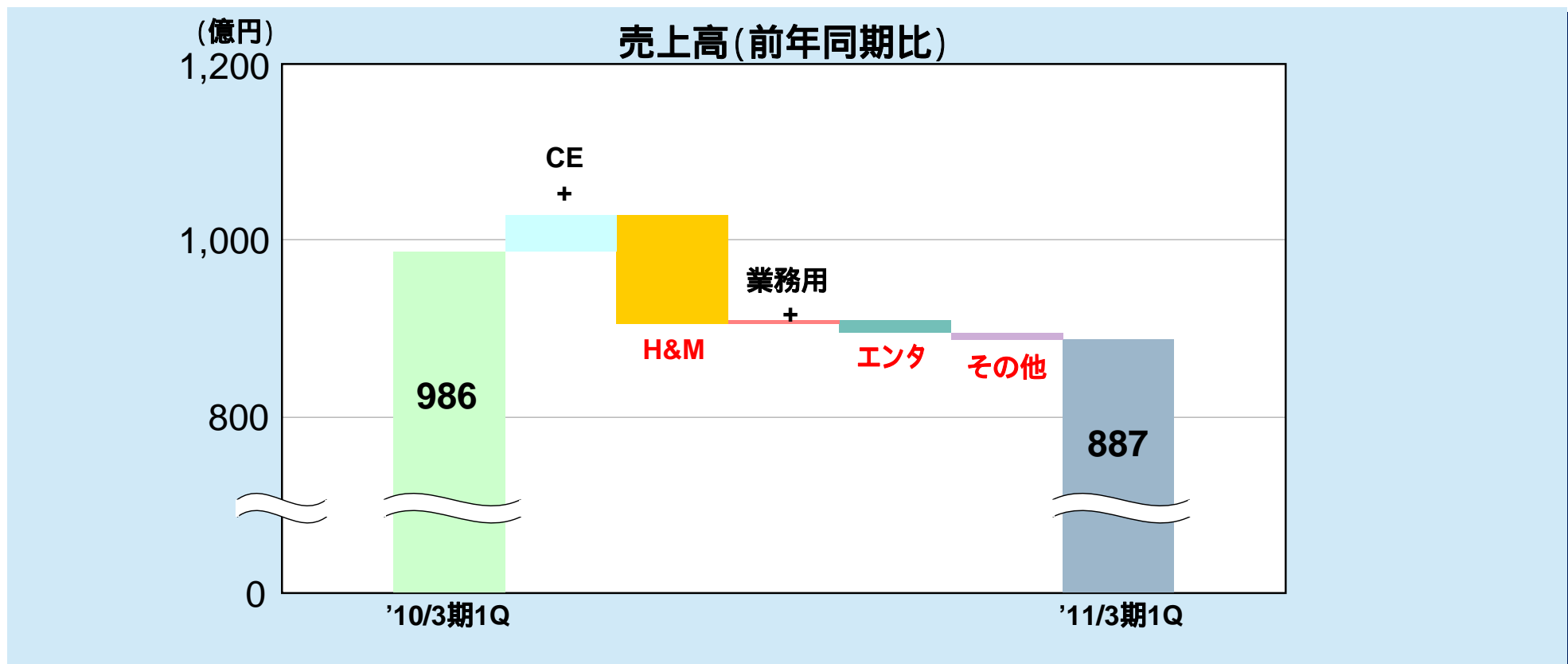


1Q実績: 887億円 (前1Q比: 10.0%)

* CEは、前4Qに引き続き、市販のシェア拡大、OEMの販売拡大により、大幅増収で最大売上の事業に

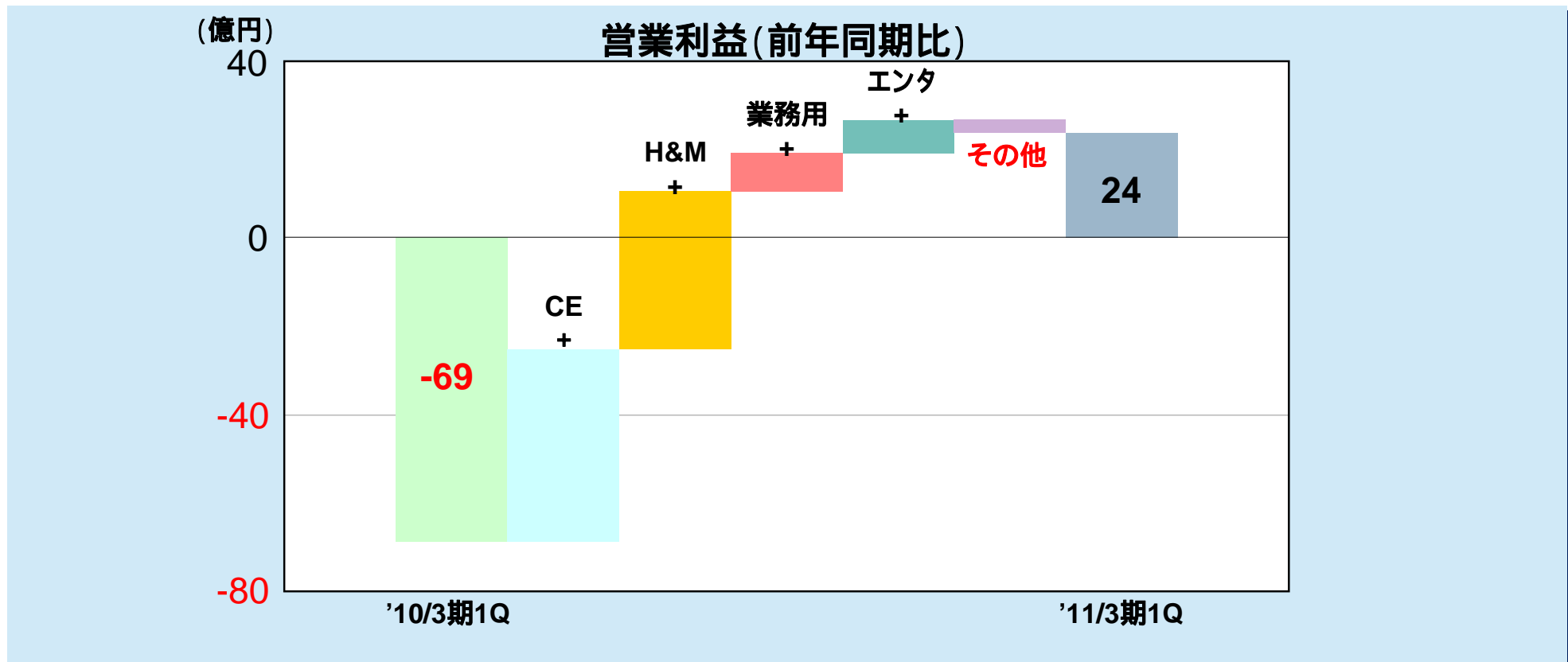
* HMは、DPの絞り込み、CAMの販売減少により、大幅減収

* 全体では、想定どおりながら前年同期比では10%減収



1Q実績: 24億円 (前1Q比: +93億円)

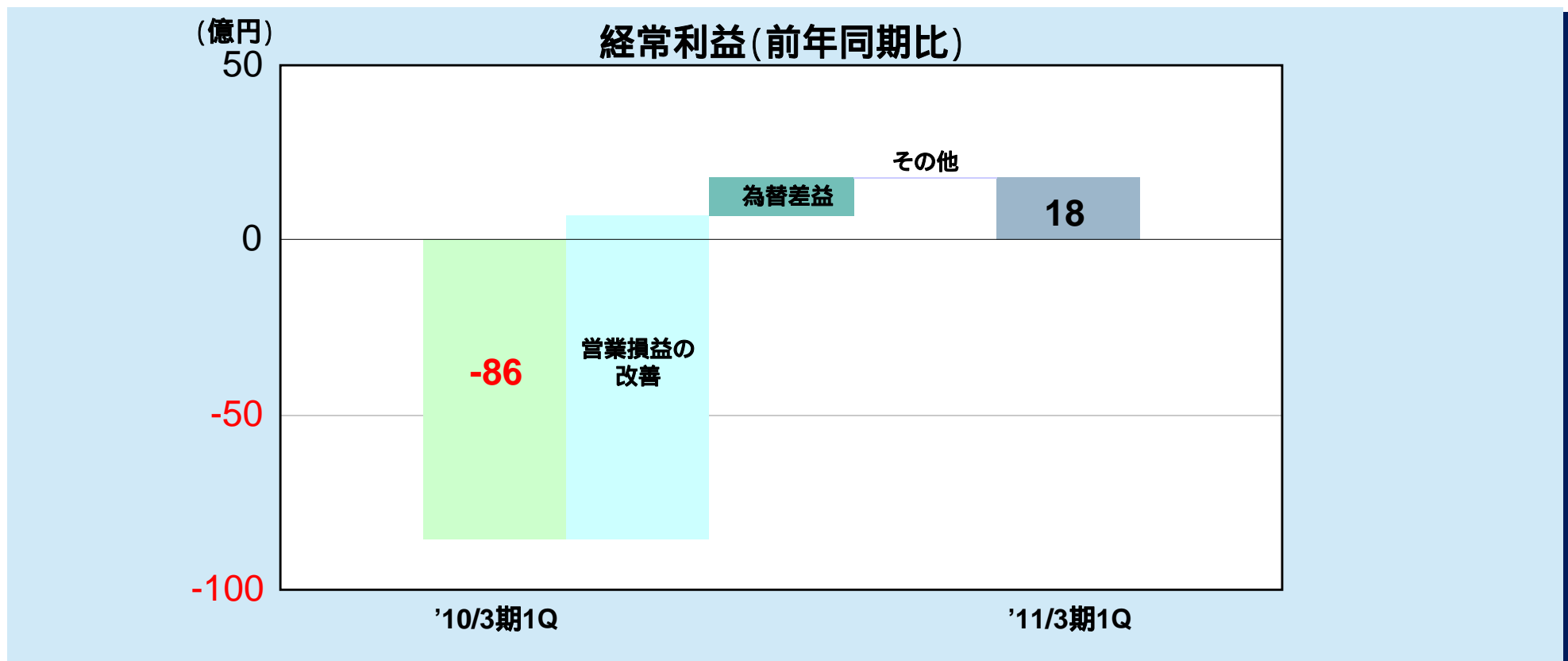
- * CE、COMは前4Qに引き続き収益力が回復し、前年同期の赤字から黒字転換
- * 事業構造改革によって固定費の大幅削減が進み、不採算事業の損失が大幅縮小、HM、BS、SEの損益が改善
- * 全体では、想定を大きく上回る前年同期比93億円改善で、前4Qに続いて**2四半期連続**で経営統合後の**最高益を更新**



1Q実績:18億円(前1Q比:+104億円)

* 営業利益の大幅な改善、為替差益(11億円)の発生による営業外収支の改善

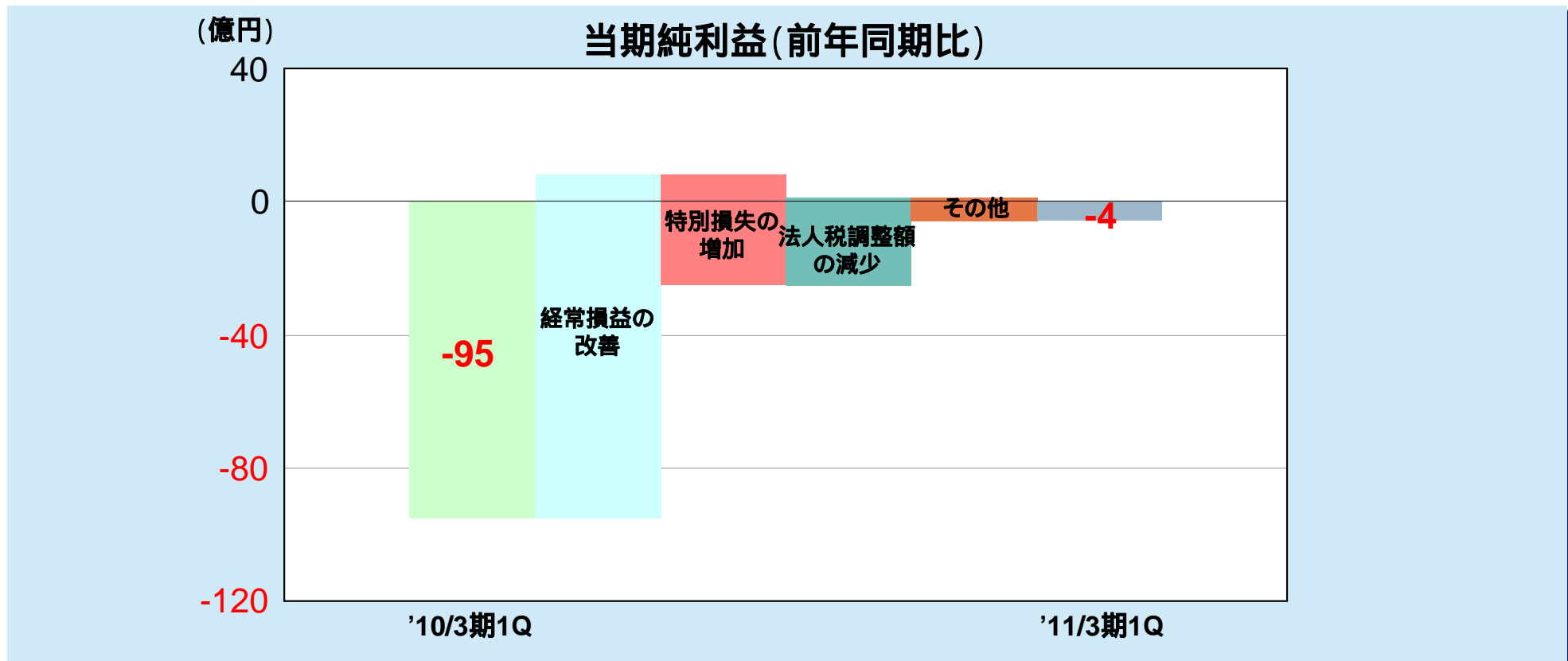
* これらにより、想定を大きく上回る前年同期比104億円改善で、統合後初の黒字化



1Q実績:-4億円(前1Q比:+91億円)

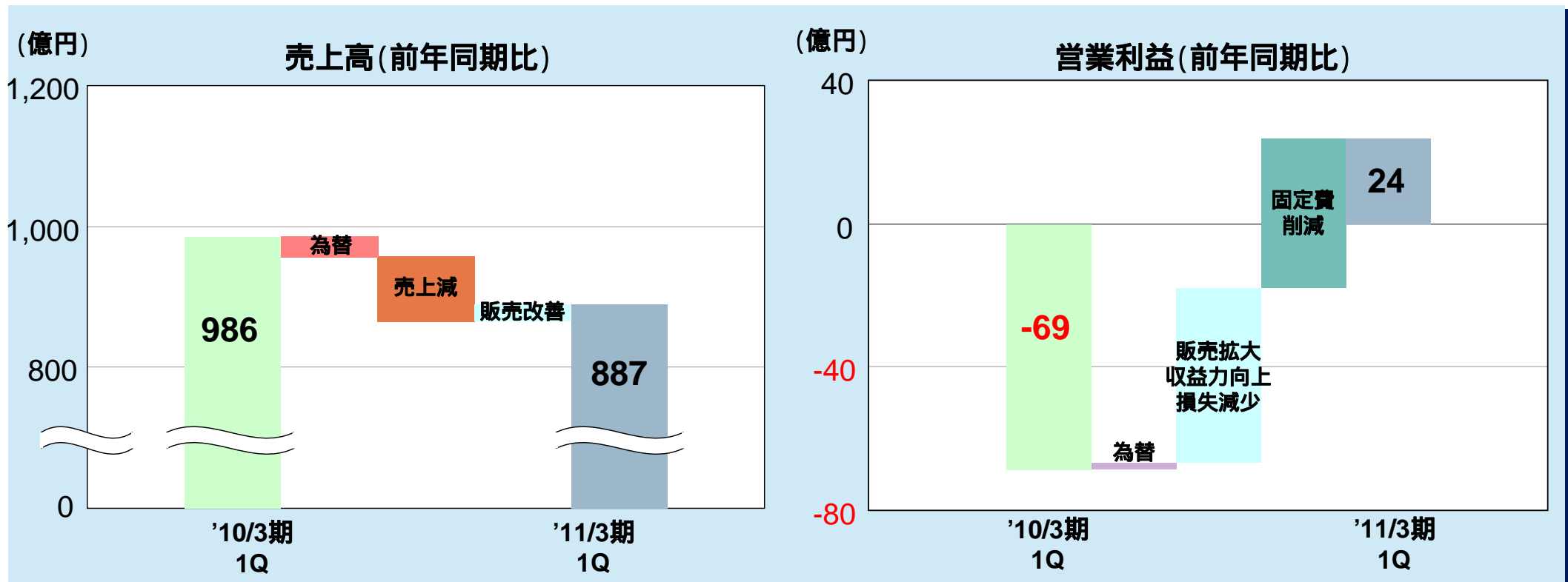
* 固定資産売却損(18億円)、課徴金の引き当て(15億円)、資産除去債務など特別損失合計43億円(前年同期比33億円増)を計上

* しかしながら、経常利益の大幅な改善、法人税等調整額の減少(26億円)などにより、想定を大きく上回る前年同期比91億円改善



* 大幅減収の要因は、HMの売上減(DPの絞り込み、CAMの販売減少)

* 大幅増益の要因は、販売拡大・収益力向上(CE)、損失減少(DP)、固定費削減(HM、BB)



セグメント別情報

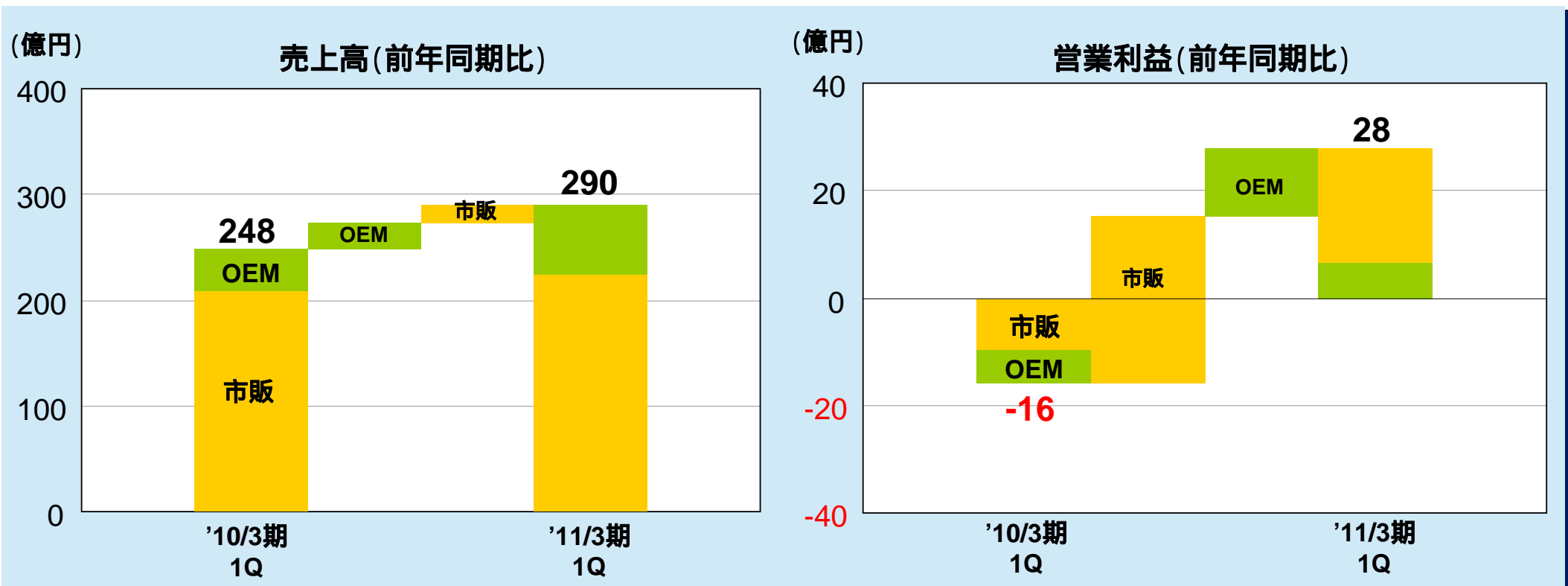
売上高 :290億円 (前1Q比:+16.7%)

営業利益 :28億円 (前1Q比:+44億円)

* **市販**: 統合によってコスト競争力が高まった2010年新商品群の拡販で、新興国の販売拡大、欧米のシェア拡大、国内ではメモリーナビが販売に貢献

* **OEM**: ディーラーオプション向けナビの販売が拡大、車載機器用CD / DVDメカの出荷台数もさらに増加

* これらにより、売上高は前年同期比16.7%増収、営業利益は高収益力を持続し、前年同期比44億円改善



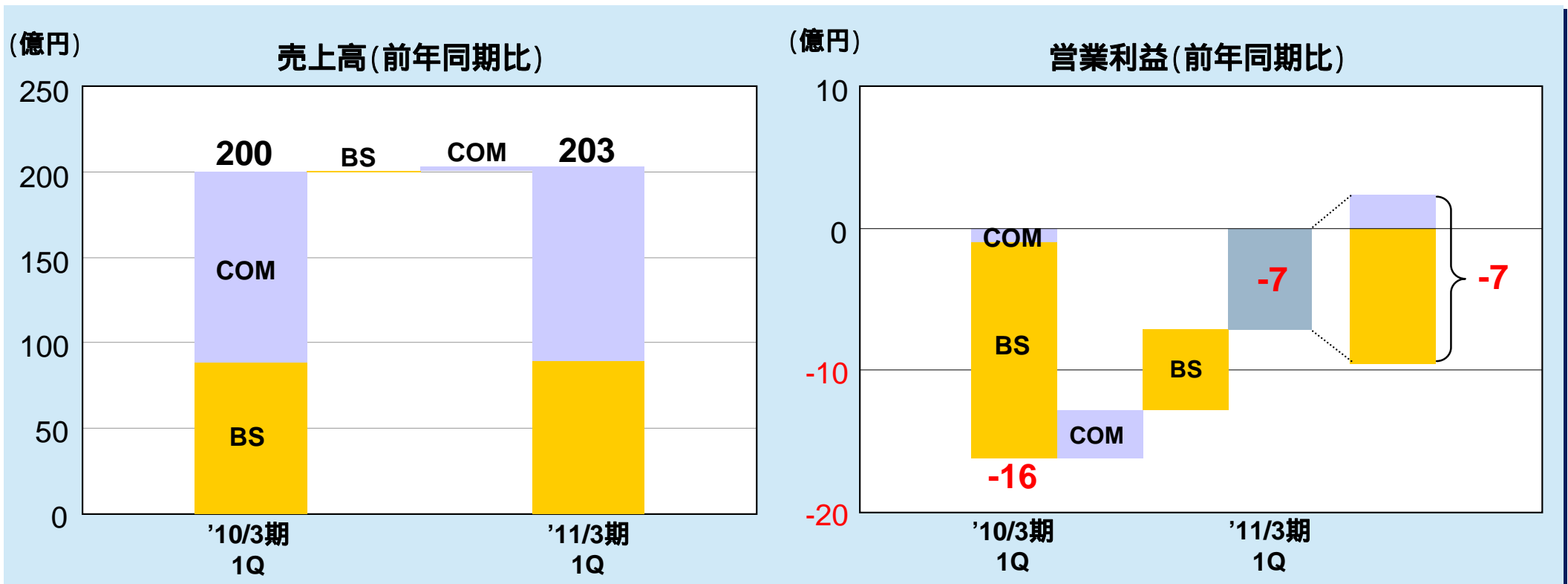
2011年3月期 第1四半期決算 業務用システム事業

売上高 :203億円 (前1Q比:+1.8%)
営業利益 :-7億円 (前1Q比:+9億円)

* **COM**: 米国公共安全向け受注が回復傾向、鉄道向けなどの民間需要が引き続き活発で、デジタル無線機の販売が拡大、欧州・アジアでも販売が拡大したことから、前年同期比で売上高が回復、営業黒字を堅持

* **BS**: 需要の低迷は続いたが、クリエイション、プロオーディオ、プリンターを中心に販売が回復傾向で、売上高は前年同期並み、事業構造改革効果により営業損失は大幅減少

* これらにより、売上高は前年同期比1.8%増収、営業利益は前年同期比9億円改善



売上高 : 271億円 (前1Q比: 31.0%)

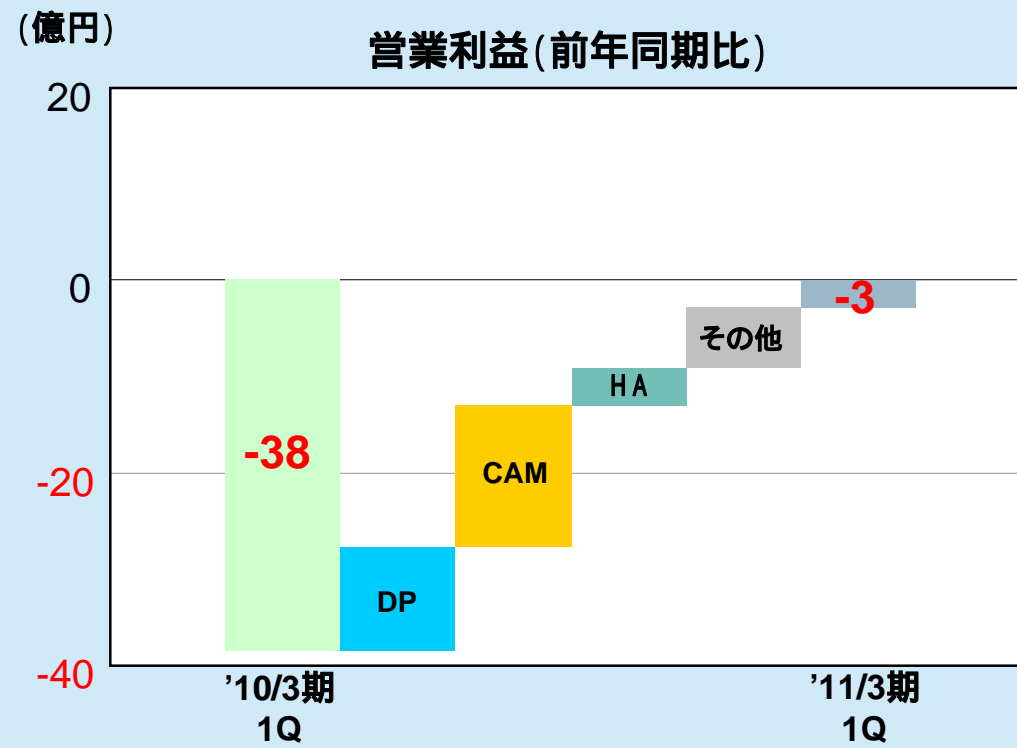
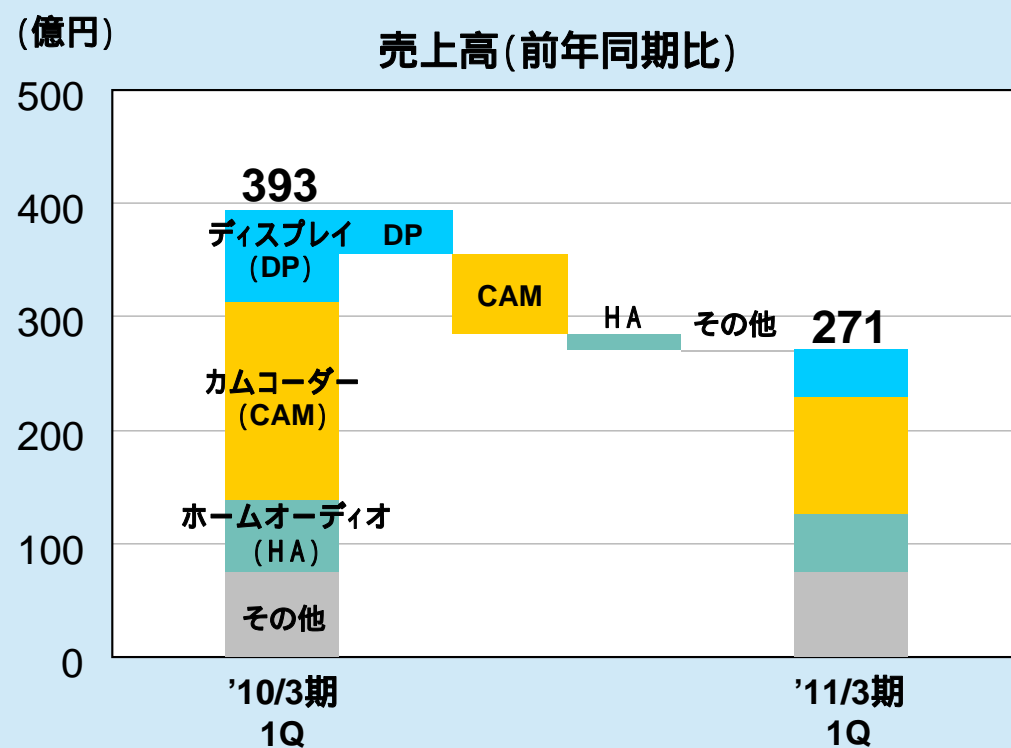
営業利益 : -3億円 (前1Q比: +36億円)

* DP: 事業構造改革による固定費削減や損失処理により、大幅減収ながら、損失は大幅減少

* CAM: 海外販売は低調ながら、国内販売の堅調、事業構造改革の効果により、減収ながら損失は大幅減少

* AVC、HA: AVCは売上・営業利益ともに増収増益、HAは前年同期比で減収ながら損失減少

* これらにより、売上高は前年同期比31.0%減収ながら、営業利益は前年同期比36億円の大幅改善(うち4億円は事業区分の変更等による)



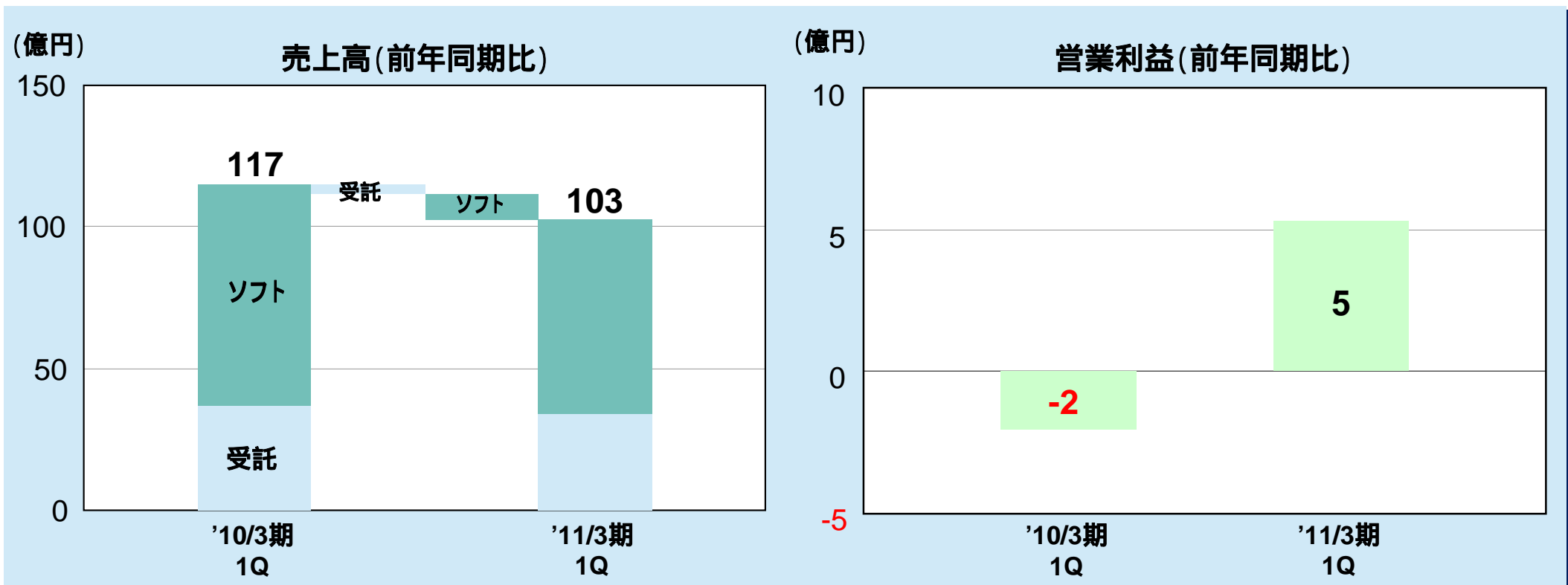
2011年3月期 第1四半期決算 エンタテインメント事業

売上高 :103億円 (前1Q比: 12.1%)
営業利益 :5億円 (前1Q比:+7億円)

*ソフトビジネスは好調な新譜販売に加え、アニメ関連が堅調に推移

*プレスビジネスもCD、BDが堅調に推移

*これらにより、売上高は前年同期比12.1%減収ながら、営業利益は前年同期比7億円改善で黒字転換



バランスシート

- * 総資産は、売上債権の減少、有形固定資産の売却などにより、前期末比233億円減
- * 有利子負債(借入金と社債の合計)は、借入金の返済などにより、前期末比68億円減、負債合計は前期末比181億円減、ネットデットは前期末比69億円減
- * 株主資本は、当期純損失を計上したものの、剰余金の増加により、前期末比6億円増、純資産は、為替換算調整勘定の減少により、前期末比53億円減、自己資本比率も若干減少

	前期末	1Q末	前期末増減
総資産	2,748	2,514	-233
有利子負債	1,083	1,016	-68
ネットデット	648	579	-69
資本金	100	100	0
株主資本	626	632	+6
純資産	468	415	-53
自己資本比率(%)	16.7	16.2	-0.5
1株当たり純資産(円)	47.45	42.16	-5.29

(億円)

キャッシュ・フロー 重点施策「キャッシュの増出」

営業活動によるキャッシュ・フロー

* 税金等調整前四半期損失を21億円計上したものの、売上債権の減少など必要運転資金の減少により、31億円の収入

投資活動によるキャッシュ・フロー

* 有形・無形固定資産の取得による支出はあったものの、有形固定資産の売却により、49億円の収入

財務活動によるキャッシュ・フロー

* 借入金の返済など有利子負債の削減により、56億円の支出

当期末の現金及び現金同等物は436億円

2011年3月期 業績予想と今後の取り組み

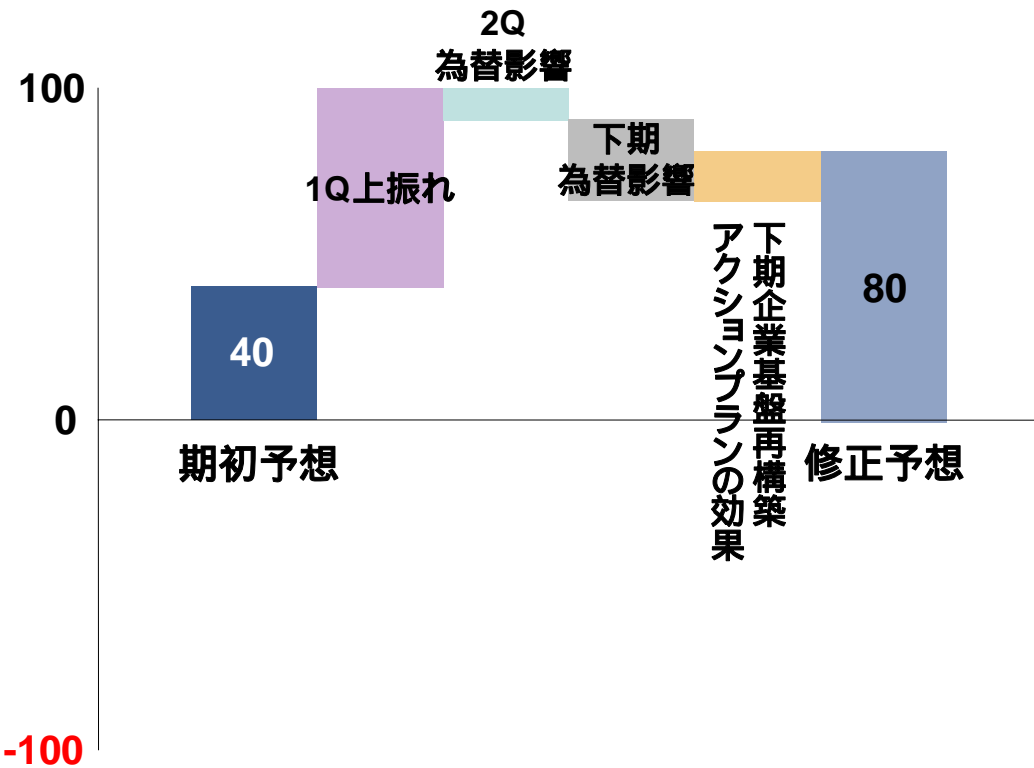
代表取締役会長 兼 社長 兼 CEO 河原 春郎

1Q業績の上振れをふまえ、2Q以降の円高の影響なども考慮して
2Q累計 / 通期の業績予想を修正(7月28日付発表)

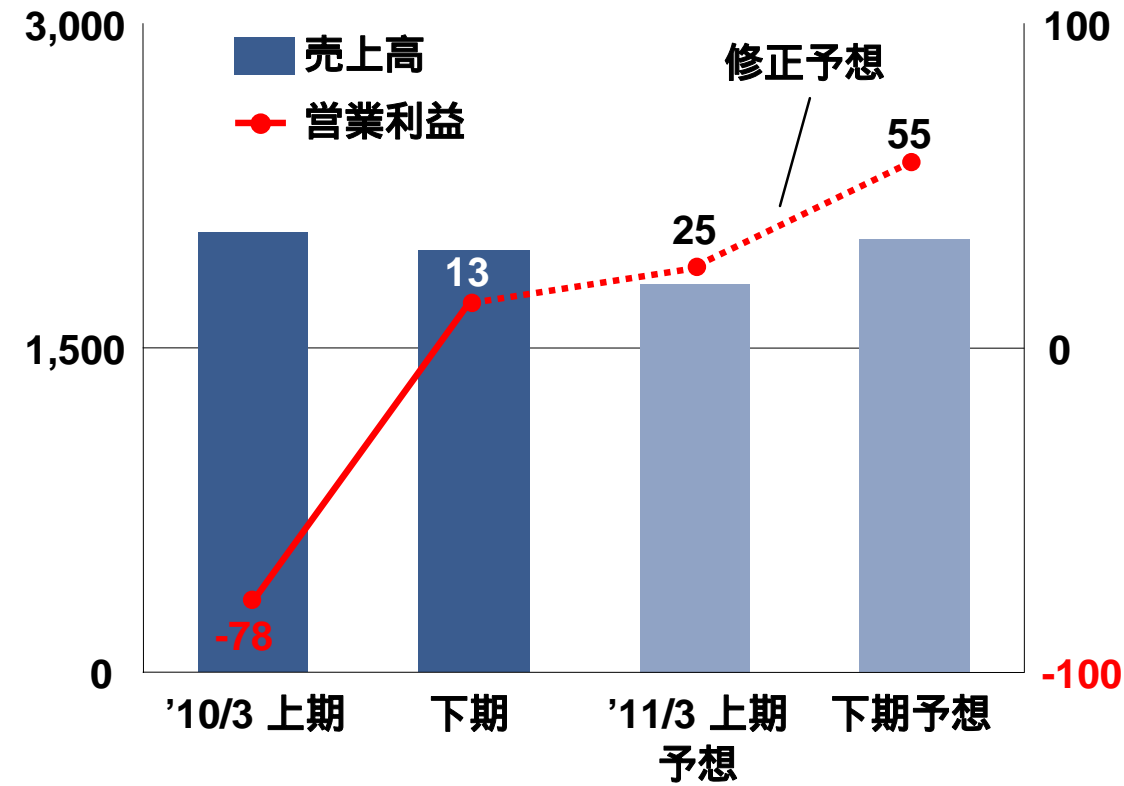
(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
< 2Q累計 >				
修正予想	1,800	25	-5	-70
期初予想	1,800	-25	-65	-145
< 下期 >				
修正予想	2,000	55	20	-60
期初予想	2,000	65	30	15
< 通期 >				
修正予想	3,800	80	15	-130
期初予想	3,800	40	-35	-130

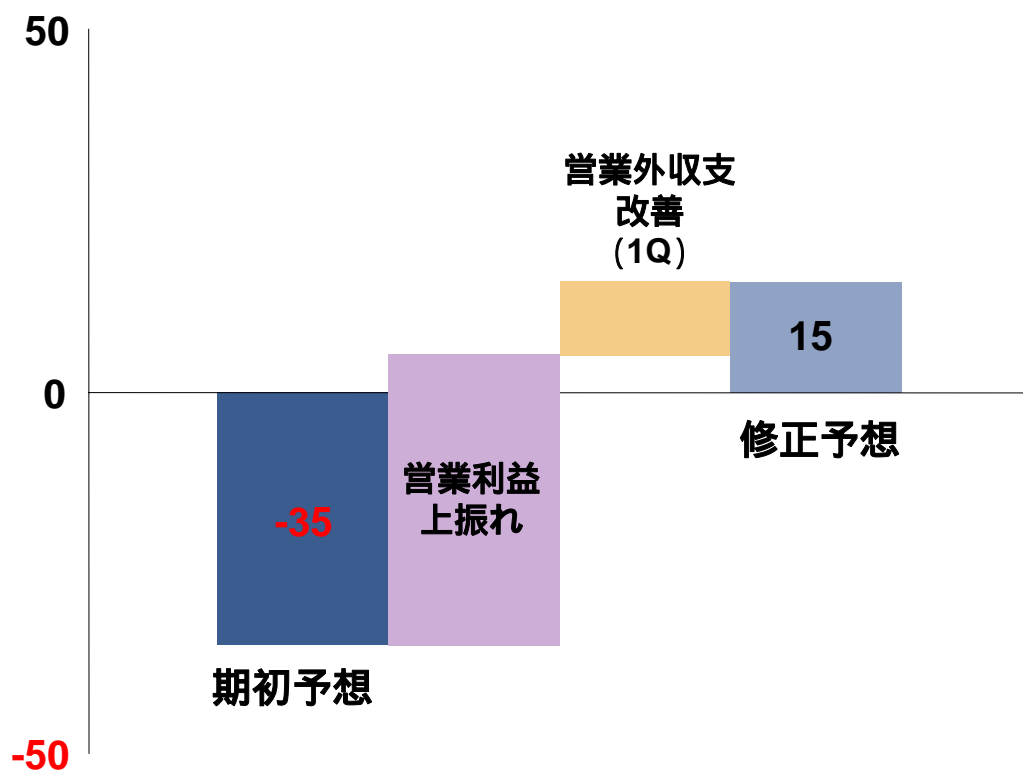
< 営業利益：億円 >



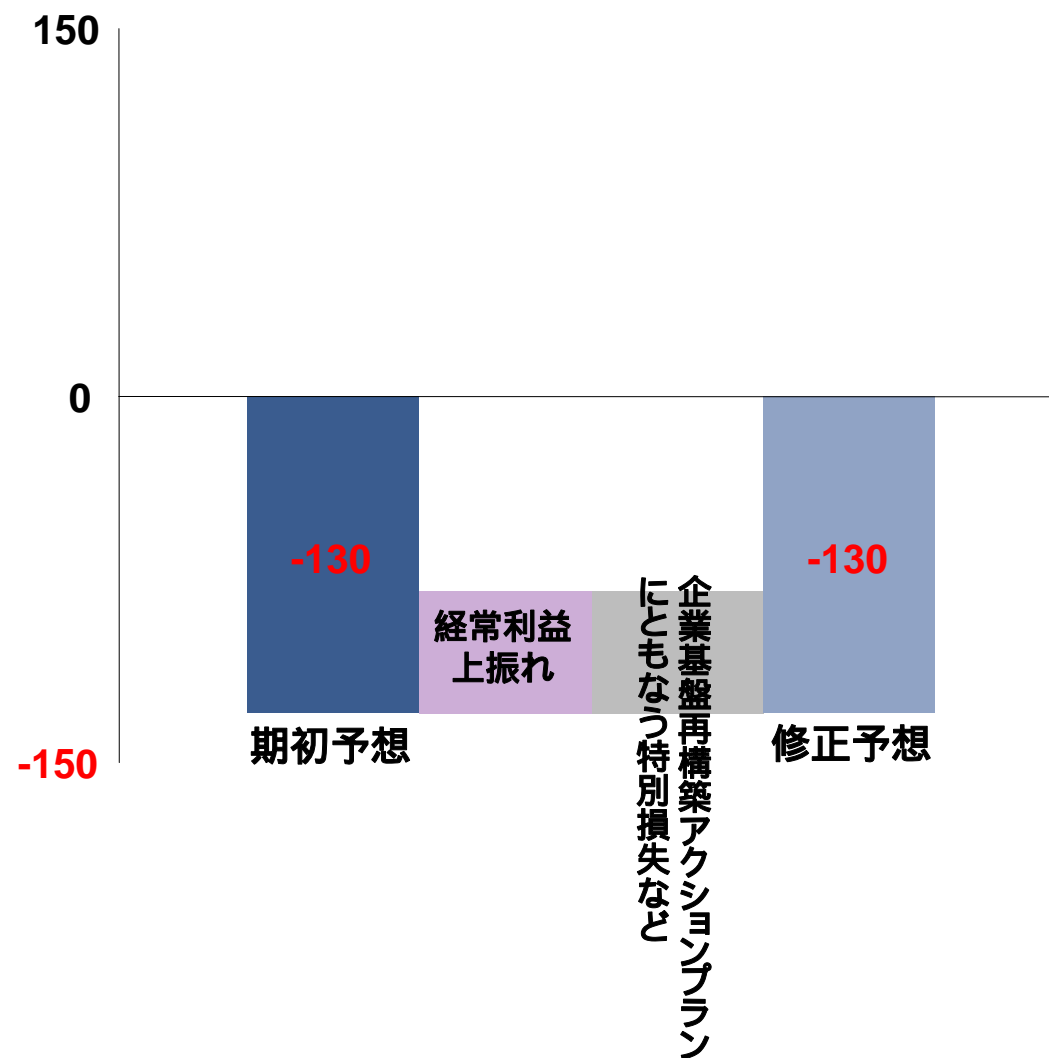
< 半期推移：億円 >



< 経常利益：億円 >



< 当期純利益：億円 >



当1Qの好調領域をさらに伸ばす

- * 欧米でのシェアアップ(市販)
- * 新興国での販売拡大(市販、DOP)
- * フラッシュメモリーナビの販売拡大、ラインアップ増強(市販、DOP)
- * DVD / CDメカの出荷増加(OEM)
- * 純正ナビの販売増加(OEM)

販売好調なCE市販2010年新商品群



ケンウッド・ビクターによる
初の統合ナビゲーションシステム
(国内市販向け)

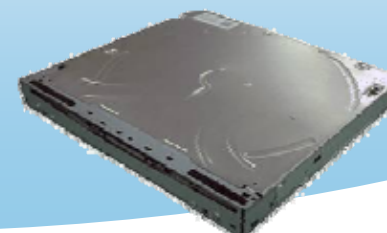


海外市販向け Garmin協業
メモリーナビゲーションシステム

海外市販向けCDレシーバー



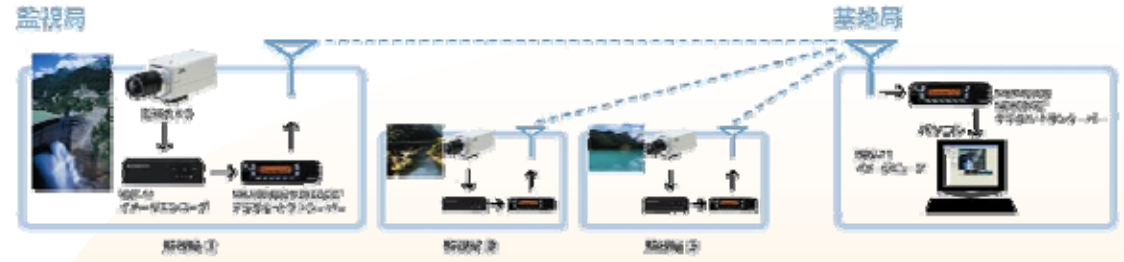
前期比100万台増の400万台の出荷を見込む
車載用DVD / CDメカ



今後の取り組み 業務用システム事業

当1Qの回復基調を軌道に乗せる

- * 米国公共安全向け受注の回復 (COM)
- * 米国鉄道会社向けなど民間向けデジタル無線機の販売拡大、欧州・アジアでも販売拡大 (COM)
- * クリエーション、プロオーディオ、プリンターを中心に販売が回復 (BS)



ケンウッドの無線技術とビクターの画像圧縮技術を融合し共同開発「NEXEDGE®」シリーズに追加設置して監視カメラ画像を伝送

カナダG8・G20で使用された業務用デジタル無線システム「NEXEDGE®」シリーズ



3Dイメージプロセッサ

ビクター2D-3D変換技術が東映3D映画制作に採用



企業基盤再構築アクションプランの効果を発現させ、
新しいビジネスモデルへ転換してこれまでの構造改革に区切り

- * 新しいビジネスモデルへの転換 (DP)
- * 2011年モデルの投入による販売回復 (CAM)
- * 収益性の増進 (AVC、HA)

欧州で権威のある「TIPA Awards 2010」において
ハイエンド・カムコーダー商品部門の年間最優秀製品賞を受賞



ハイビジョンメモリームービー“Everio”「GZ-HM1」

高い収益性を持続するAVCアクセサリ-



今後の取り組み エンタテインメント事業

1Qに引き続き、ヒット作品を輩出しながら、総合エンタテインメントの実現を目指す

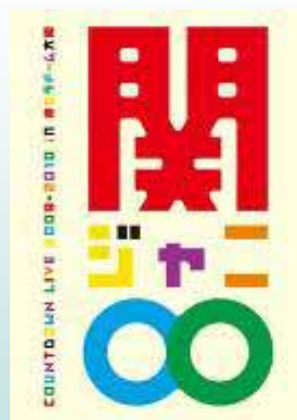
* 新譜・旧譜でのヒット作品の輩出

* 総合エンタテインメントの実現

エンタテインメント事業1Qヒット作品 & 2Q期待作品



「ハラッド」原由子
ピクチャーエンタテインメント



「COUNTDOWN LIVE 2009-2010
in 京セラドーム大阪」
関ジャニ
テイチクエンタテインメント



「We are SMAP!」SMAP
ピクチャーエンタテインメント



「関パニvol.1~3」関ジャニ
テイチクエンタテインメント

JVC KENWOOD HOLDINGS



このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。